

2023年7月

# グラフで見る和歌山県経済指標

和歌山県経済は、個人消費が緩やかに持ち直しているが  
企業活動の一部にやや弱さが見られる

内閣府の月例経済報告（2023年7月26日公表）において、「景気は、緩やかに回復している」との判断が維持された。個別項目については、「業況判断」、「公共投資」において判断が引き上げられた。

以下では、「全国的情勢」、「和歌山県的情勢」を主要経済指標（主に6月の値）に基づき報告する。

## 全国的情勢

- ① 需要動向に関して、「個人消費」、「輸出」、「住宅建設」、「設備投資」の判断は維持された。「公共投資」については、2022年度補正予算の執行が進んだことで、公共工事出来高の増加が続き、「堅調に推移している」との判断に引き上げられた（判断引き上げは11か月ぶり）。
- ② 企業活動に関して、「生産」、「企業収益」、「倒産件数」の判断は維持された。「業況判断」については、6月の日銀短観調査で大企業・製造業の業況判断指数が7四半期ぶりに改善したこともあり、「持ち直している」との判断に引き上げられた（判断引き上げは7か月ぶり）。
- ③ 雇用情勢に関しては、「このところ改善の動きがみられる」との判断が維持された。
- ④ 物価に関しては、「消費者物価」が「上昇している」、「国内企業物価」については、「このところ緩やかに下落している」との判断が維持された。
- ⑤ 世界経済に関しては、「一部の地域において弱さがみられるものの、持ち直している」との判断が維持された。国・地域別では、韓国が「景気は持ち直しの兆しがみられる」に、台湾が「景気は下げ止まりの兆しがみられる」との判断に引き上げられた。

## 和歌山県的情勢

① 個人消費面では、**百貨店・スーパー販売額（6月）**は、前年同月比1.0%増となり、9か月連続で前年を上回った。近鉄百貨店和歌山店の販売額（6月）は、前年同月比で0.2%増となっている。また、コンビニ販売額は同3.2%増、ドラッグストア販売額は同8.1%増で、個人消費は後述の新車販売台数を含めて持ち直し傾向にある。5月に新型コロナウイルス感染症が感染法上の「5類」に移行となり、人々の外出機会が増加している。その一方で、和歌山市内の消費者物価指数（6月）の水準は高く、家計の節約志向の強まりが懸念される。

**新車販売台数（軽自動車[乗用]含む、6月）**は、前年同月比20.8%増となり、10か月連続で前年を大きく上回った。コロナ禍前の2019年6月と比較すると7.7%減だが、その減少幅は縮小している。半導体不足の緩和により、新車の供給台数が増加しており、1~6月における国内自動車メーカー（8社）の世界生産台数はコロナ禍前の9割水準まで回復した。

**新設住宅着工戸数（6月）**は225戸で、前年同月比34.6%減（4か月連続で前年を下回る）。直近10年間ではコロナ禍当初の220戸（2020年5月）に続いて2番目に少なくなっている。「持家」が4か月連続、「分譲住宅」は5か月連続で前年を下回った。着工戸数が減少傾向にある要因としては、住宅価格の上昇が挙げられる。国土交通省「建築着工統計」によると、工事費予定額（㎡単価、全国）は、前年比15.8%の上昇率となっている。

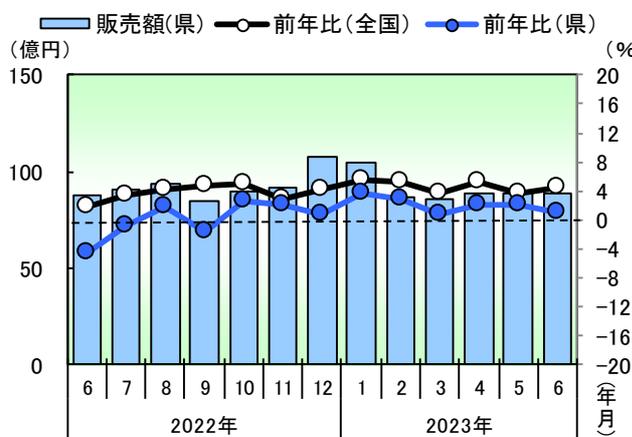
② 企業活動面では、**鉱工業生産指数（5月）**は、前月から1.1ポイント上昇（上昇は3か月連続）。鉄鋼業や化学工業、食料品工業、電気機械工業での指数上昇が全体をけん引した。その他の主要業種である生産用機械工業については、前月からは上昇したものの、やや低い水準にある。全国の生産指数については、半導体不足の影響で停滞していた自動車生産が回復に向かい、全体の生産指数を引き上げている。ただ、化学工業、生産用機械工業、汎用・業務用機械工業については低迷しており、業種によって生産状況に違いが見られる。

**公共工事請負金額（6月）**は、前年同月比10.1%減となり、2か月連続で前年を下回った。4～6月までの累計請負金額についても、前年同期比6.4%減となっている。田辺市庁舎新築関連工事やすさみ串本道路関連工事など紀南エリアを中心に大型工事が見られる一方で、和歌山市エリア、紀北エリアでは請負金額が減少傾向にある。

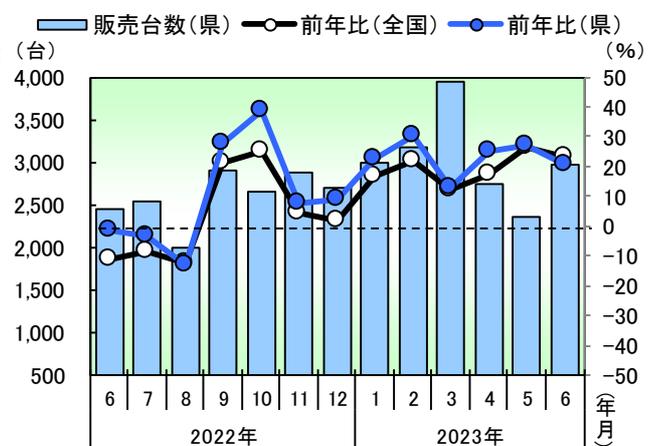
帝国データバンクが発表している**県内TDB景気DI（6月）**は、前月から2.2ポイント上昇。上昇は3か月連続。建設業、サービス業で景気DIが2か月連続で上昇した。製造業については、1年後の見通しにおいて景気DIが50超になる模様。このような状況を受けて、帝国データバンクは、「本格的な景気回復への障害は多いものの、足下の県内景況は引き続き緩やかな回復基調をたどるものと予想される」としている。

③ 雇用面については、**有効求人倍率（6月）**は、前月から0.03ポイント下降し、1.13倍（下降は4か月連続）。有効求人数が3か月連続で減少し、東京都や大阪府に緊急事態宣言が発出されていた2021年7月以来、約2年ぶりの低水準となっている。経済活動の正常化に伴い、宿泊業・飲食業を中心に人手不足感が強まる一方で、原材料価格や光熱費の高騰により、人手不足でも人材を採用できない企業が増えているものと考えられる。

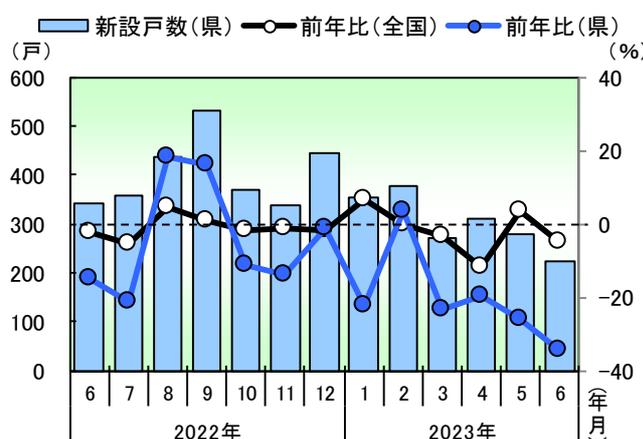
**百貨店・スーパー販売額**



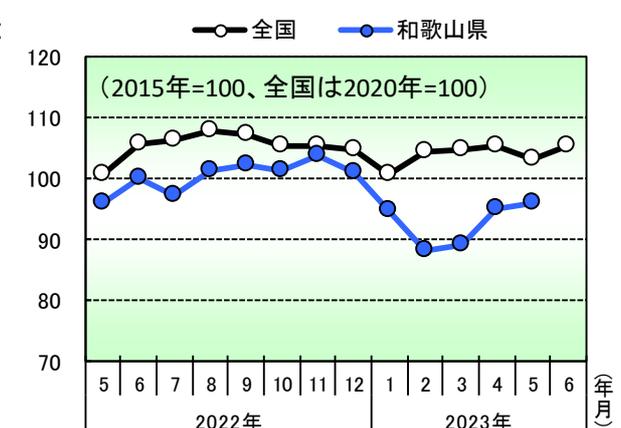
**新車（登録車＋軽自動車）販売台数**



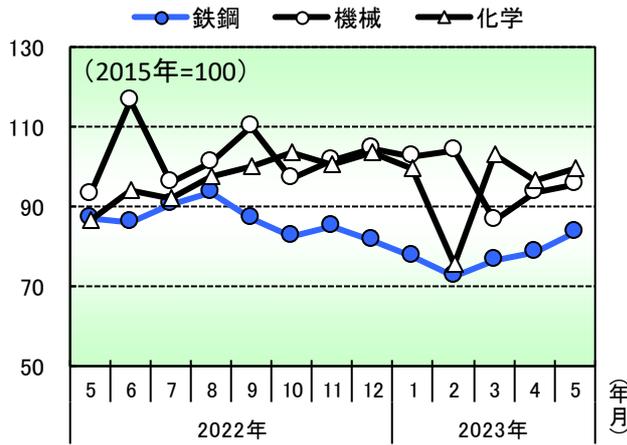
**新設住宅着工戸数**



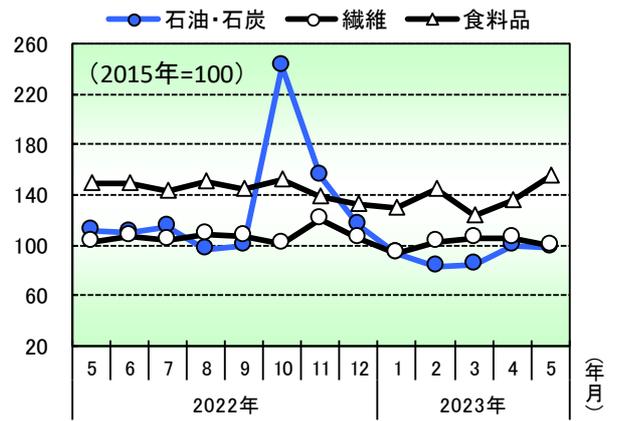
**鉱工業生産指数**



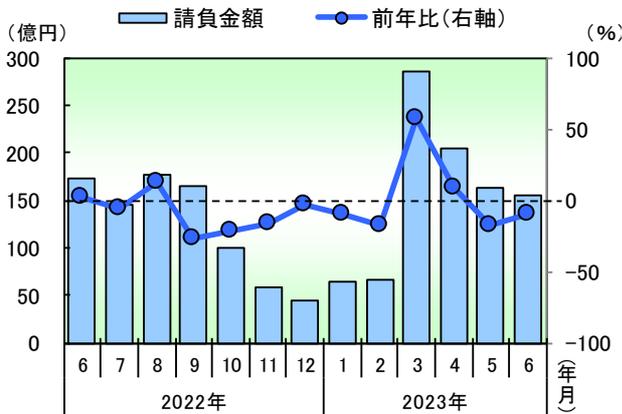
鉱工業生産指数(和歌山県)



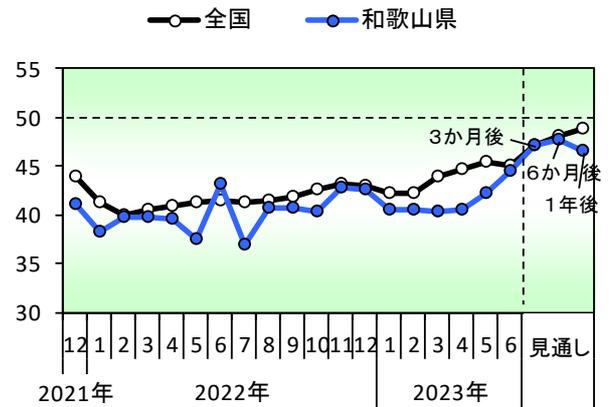
鉱工業生産指数(和歌山県)



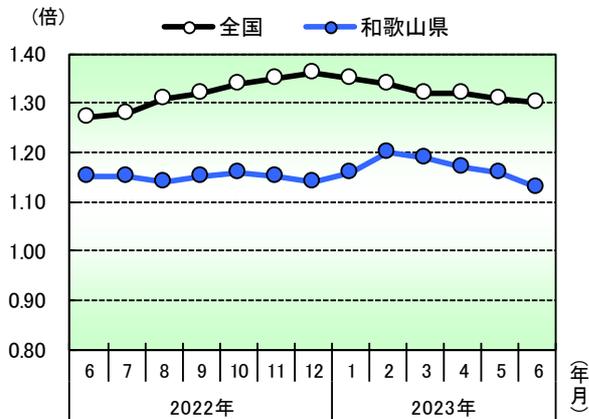
公共工事請負金額(和歌山県)



TDB景気DI(判断の分れ目は50)



有効求人倍率



(資料) 株式会社データバンク

## (1)個人消費面

	百貨店・スーパー販売額			新車販売台数(*登録+軽)			新設住宅着工戸数		
	販売額 (億円)	全国 (前年比)	和歌山県 (前年比)	販売台数 (台)	全国 (前年比)	和歌山県 (前年比)	着工戸数 (戸)	全国 (前年比)	和歌山県 (前年比)
2017年	1,237	0.0	-1.3	38,692	5.3	4.7	4,539	-0.3	-5.6
2018年	1,211	0.0	-2.1	38,949	0.2	0.7	4,935	-2.3	8.7
2019年	1,188	-1.1	-1.9	38,733	-1.6	-0.6	5,188	-4.0	5.1
2020年	1,133	-5.4	-5.4	33,942	-11.6	-12.4	4,514	-9.9	-13.0
2021年	1,093	0.9	-3.7	32,416	-3.3	-4.5	4,591	5.0	1.7
2022年5月	86.8	9.1	-1.3	1,847	-18.2	-20.6	375	-4.3	14.3
6月	87.6	1.9	-4.5	2,461	-11.2	-1.6	344	-2.2	-15.1
7月	91.0	3.3	-0.8	2,543	-8.2	-3.1	358	-5.4	-21.3
8月	93.6	4.3	1.7	2,001	-12.1	-12.7	436	4.6	18.5
9月	85.0	4.8	-1.6	2,899	21.4	27.9	531	1.0	16.2
10月	89.3	4.9	2.6	2,648	25.1	38.6	372	-1.8	-11.4
11月	92.0	3.0	2.0	2,877	4.5	7.5	338	-1.4	-13.8
12月	107.8	4.1	0.7	2,696	1.6	9.2	444	-1.7	-1.1
2023年1月	104.4	5.5	3.8	2,999	16.6	22.3	354	6.6	-22.0
2月	86.7	5.2	3.0	3,185	22.1	30.4	378	-0.3	3.8
3月	85.9	3.6	0.8	3,942	12.2	13.2	271	-3.2	-23.2
4月	88.4	5.2	2.2	2,754	17.4	25.2	312	-11.9	-19.8
5月	88.5	3.7	2.0	2,350	26.2	27.2	278	3.5	-25.9
6月	88.5	4.4	1.0	2,973	23.4	20.8	225	-4.8	-34.6

(2023年8月8日に取得可能な資料より作成)

## (2)企業活動面

	鉱工業生産指数(2015年=100) *全国は2020年=100								公共工事請負額		TDB 景気DI
	全国	和歌山県	鉄鋼	機械	化学	石油石炭	繊維	食料品	請負金額 (億円)	和歌山県 (前年比)	
2017年	103.1	109.2	107.1	120.1	102.8	100.7	105.7	117.1	1,292.6	-9.5	
2018年	104.2	109.2	109.5	117.9	101.2	98.1	106.1	134.7	1,487.6	15.1	
2019年	101.2	102.7	110.3	100.8	100.5	95.4	106.6	138.0	1,585.1	6.6	
2020年	90.9	88.9	81.3	85.0	92.6	76.5	105.0	119.5	1,847.2	16.5	
2021年	95.7	88.4	78.1	89.9	85.6	68.6	101.8	139.8	1,806.3	-2.2	
2022年5月	100.7	96.2	87.0	93.1	86.8	112.0	102.2	148.5	198.0	19.0	37.4
6月	105.7	100.0	85.9	116.7	94.2	109.9	107.6	148.4	172.7	2.7	43.2
7月	106.3	97.2	90.8	96.2	92.2	114.3	104.0	142.4	145.3	-5.5	36.9
8月	107.8	101.3	93.8	101.3	97.8	96.0	108.2	151.1	176.8	12.5	40.6
9月	107.3	102.3	87.2	110.3	100.3	100.1	107.6	145.2	166.1	-26.9	40.6
10月	105.5	101.5	82.7	97.3	103.7	241.8	101.4	152.2	100.6	-21.2	40.3
11月	105.5	104.0	85.0	101.6	100.6	155.6	121.2	139.0	58.5	-16.1	42.7
12月	104.9	101.0	81.5	104.7	103.8	116.8	105.0	132.9	44.3	-2.3	42.6
2023年1月	100.8	94.7	77.6	102.6	99.8	93.7	93.9	129.6	65.1	-9.6	40.4
2月	104.5	88.2	72.7	104.1	75.7	82.6	102.5	144.3	65.8	-16.8	40.5
3月	104.8	89.2	76.7	86.8	103.3	84.4	105.2	124.2	285.3	57.1	40.3
4月	105.5	95.1	78.6	93.4	96.6	100.3	105.7	135.3	205.7	8.7	40.5
5月	103.2	96.2	83.5	95.8	99.6	98.7	99.9	155.2	162.9	-17.7	42.2
6月	105.3							155.3		-10.1	44.4

(注)鉱工業生産指数は季節調整値[ただし、年次値は除く]

(2023年8月8日に取得可能な資料より作成)

## (3)雇用面

	有効求人倍率		有効 求人 数 (人)	有効 求職者数 (人)	充足率	
	全国 (倍)	和歌山県 (倍)			パートタイム 除く(%)	パートタイム (%)
2017年	1.50	1.27	17,110	13,518	22.2	19.3
2018年	1.61	1.34	17,355	12,970	19.6	18.1
2019年	1.60	1.41	17,920	12,699	17.6	17.1
2020年	1.18	1.05	15,107	14,373	16.2	18.8
2021年	1.13	1.09	16,195	14,876	15.2	18.2
2022年5月	1.25	1.15	17,305	15,110	17.0	19.7
6月	1.27	1.15	17,317	15,055	17.6	18.5
7月	1.28	1.15	17,247	14,977	13.4	16.4
8月	1.31	1.14	16,930	14,898	15.1	16.8
9月	1.32	1.15	16,836	14,664	14.2	15.4
10月	1.34	1.16	16,752	14,486	12.7	15.1
11月	1.35	1.15	16,626	14,400	14.5	15.7
12月	1.36	1.14	16,377	14,386	12.7	13.3
2023年1月	1.35	1.16	16,260	13,991	11.1	12.2
2月	1.34	1.20	16,571	13,838	15.3	18.8
3月	1.32	1.19	16,870	14,216	18.5	21.5
4月	1.32	1.17	16,849	14,373	15.4	21.0
5月	1.31	1.16	16,464	14,179	16.5	20.2
6月	1.30	1.13	16,005	14,223	14.0	17.8

(2023年8月8日に取得可能な資料より作成)

(注1)有効求人倍率、有効求人数、有効求職者数は季節調整値[ただし、年次値は除く]

(注2)「充足率」とは、事業者が希望通りの人員数を確保できるかどうかを数値で表したものであり、数値が低いほど、人材の確保が難しい。